

コロナ禍における長崎市観光地への影響について

ーグラバー通りの商業施設を事例としてー

小野澤 泰子・浦 杏奈・小島 聖理奈

畑口 桃子・山田 萌々

要旨

日本国内では2020年3月頃より新型コロナウイルス感染拡大によって人々の生活様式や行動に大きな変化が生じ始めた。施設や店舗の開館・営業時間の制限が設けられた観光地では、制限や自粛要請が出される度に観光客数が激変し、多大な影響がおよんでいる。本稿では、観光を主な産業として位置付けている長崎市に着目し、同市を代表する観光地である大浦天主堂およびグラバー園周辺（グラバー通り）の商業施設が2020年の1年間どのように影響を受け、変化してきたかを明らかにした。

キーワード

観光業、商業施設、新型コロナウイルス(COVID-19)、グラバー通り、長崎県長崎市

1. はじめに

日本国内では2020年3月頃より新型コロナウイルス感染拡大によって人々の生活様式や行動に大きな変化が生じ始めた。施設や店舗の開館・営業時間の制限が設けられた観光地では、制限や自粛要請が出される度に観光客数が激変し、多大な影響がおよんでいる。本研究では、観光を主な産業として位置付けている長崎市に着目し、同市を代表する観光地である大浦天主堂およびグラバー園周辺（グラバー通り）の商業施設が2020年の1年間、どのように影響を受け、変化したかを明らかにすることを目的とする。

長崎市東山手・南山手地区には、世界文化遺産である大浦天主堂および旧グラバー住宅のほか、国指定重要文化財に登録されたが歴史的洋風建造物が立ち並んでおり（東山手十二番館、旧英国領事館、旧長崎税関下り松派出所、旧香港上海銀行長崎支店記念館、旧羅典神学校、旧グラバー住宅、旧リンガー住宅、旧オルト住宅）、これらの「居留地」を観光資源として活用している取り組みの現状については、山口(2016)や蔣(2020)によって研究が進められている。

しかしこの度の新型コロナウイルスの影響は、誰も予想できなかった状況を生み出している。WHO(世界保健機関)は2020年3月に新型コロナウイルス感染症の拡大はパンデミック相当であるとの見解を表明し、日本においても4月より全国で緊急事態宣言が発

令され、感染症の拡大を防ぐために県を越えての人の移動の自粛、飲食店および様々な施設の営業時間の短縮や一時休止・休業などの措置が取られ始めた。2020年8月開催予定であった東京オリンピック・パラリンピックは延期となり、本稿を執筆している同年12月現在も新型コロナウイルス感染者および死者の数も増える一方で感染拡大には歯止めがかかっておらず、人々の移動自粛や店舗等の営業時間短縮を呼びかける緊急事態宣言も出されたり解除されたりを繰り返している。緊急事態宣言を受けて人の移動が制限され観光施設が休業することは、ホテルや土産物店などの観光関連産業にとって大きな打撃となっている。新型コロナウイルスによる観光地への影響に関する研究はまだ始められたばかりであるが、観光地の人々が実際どのような状況に置かれ対応をしているか、商業施設がどのように変化しているかを観察し記録することは、今後コロナショックからの復興を目指す全ての観光地のためにも有益かつ意義あることになると考える。

本稿ではまず、2章で大浦天主堂およびグラバー園周辺地域の歴史的変遷に触れながら、グラバー通りが現在のような観光地として形成・発展してきた過程についてまとめる。3章では、本稿が研究対象としたグラバー通りで2020年5月および12月に行ったフィールドワーク調査結果を元に、商業施設の様子や変化、現地の人々の声をまとめる。4章で今回の調査で分かったことからグラバー通りの商業構造について考察し、今後更に深めるべき課題について述べる。

2. 大浦天主堂・グラバー園周辺地域の観光地としての発展過程

現在では長崎を代表する観光名所である大浦天主堂とグラバー園であるが、この章ではこの周辺（東山手・南山手）が観光地として形成されてきた背景について触れる。

2.1 幕末から戦前まで

1859年、開国により函館、横浜、長崎が開港され、ロシア、フランス、イギリス、オランダ、アメリカなどの国と自由貿易ができるようになると同時に、長崎の町に外国人のための居留地が造られ始めた。長崎居留地の場所として、町に隣接する大村藩領の大浦戸町村が選ばれ、1860～1870年にかけて、大浦の海岸が埋め立てられながら造成工事が行われ、東山手・南山手周辺の居留地が完成。（バークガフニ，2010）海岸沿いの通りは一等地で商社や銀行、領事館が並び、東山手と南山手を隔てる大浦川沿いの中等地には商店や外国人バーなど商業施設が多く集まっていた。東山手のオランダ坂を登ったあたりや、南山手の大浦天主堂や現在のグラバー園があるいわゆる「山手」の高台は下等地で、住宅や学校などが建てられた。（堀，2008a）1863年にグラバー邸も南山手3番地に完成している。（バークガフニ，2010）この頃はまだ海岸沿いや大浦川沿いが商業地区であるが、東山手・南山手周辺の観光地としての基盤が、この居留地造成期の1960年代にできたと考えられる。

明治時代（1868～1912年）、良質の石炭を供給できる長崎は蒸気船にとって燃料の補給基地として貴重な場所であり、多くの外国船が寄港していた。海に面する大浦地区は休息のため上陸する船員や観光を楽しむ外国人であふれ、様式ホテルが次々と建てられるようになった。最初は船員向けの宿として始まった長崎のホテルであったが、外国人観光客向けのサービスを兼ね備えたスタイルへと変わっていった。（堀，2008b）1896年には香港上海銀行が長崎支店を開設し、1923年には上海-長崎航路が就航、更に多くの外

国人旅行者が長崎を訪れるようになった。国を挙げた外貨獲得のための観光施策としてジャパン・ツーリスト・ビューロー(JTBの前身)が1912年に設立されたとき、日本を代表する観光地として脚光を浴びたのが長崎と雲仙であった。(堀, 2008b) こうした様々な要因が、長崎での貿易が陰りを見せ始める1930年頃まで、東山手・南山手周辺を国際色豊かな観光地としての発展させていったのである。

一方、外国人居留地はというと、長崎が観光地としてにぎわい始めていた1899年に条約改正(治外法権の廃止)により、居留地は公式には廃止され、外国人の市内雑居が始まっていった。1904年に始まった日露戦争により、旧居留地の人口は徐々に減りはじめ、空き家となったところを日本人の家族や企業が使うようになった。1928年に最後の英字新聞「ナガサキ・プレス」が廃刊となったことが、長崎に住む外国人がいなくなったことを象徴している。(パークガフニ, 2010)

2.2 戦後からグラバー園開園まで

1941~1945年の太平洋戦争(第二次世界大戦)により長崎は壊滅的な打撃を受け、かつての繁栄と国際色は消えてなくなってしまった。しかし幸いなことに、原爆の爆心地から離れていたこともあり、居留地の洋風建築の多くは破壊されずに残った。外国人住民は戦後居留地に戻ってくることはなく、残された建物の大部分は1955年頃からの再開発の波にのまれ、20分の1ほどに減ってしまった。(パークガフニ, 2010)

そんな中、居留地を残そうという動きがあった。旧グラバー住宅は、1957年に三菱長崎造船所の開所100周年を記念して同所から長崎市へ寄贈された。翌年、長崎市は旧グラバー住宅を一般公開し、その後1961年に国の重要文化財に指定された。これを受けて同市は1965年に旧リンガー住宅を購入し、その翌年に旧リンガー住宅は国の重要文化財に指定された。同時期に愛知県の博物館・明治村が歴史的建造物のテーマパークの先駆けとして大成功を収めていたことに刺激を受けた長崎市は、旧グラバー住宅周辺に、市内に点在する明治期の建造物を移築して野外博物館とする「長崎明治村」計画をたてた。そして同市は旧リンガー住宅に隣接した旧オルト住宅を購入し、1972年に国の重要文化財に指定された。続いて市内に点在していた旧ウォーカー住宅や自由亭などの6棟を移築した。こうして長崎市の新しい観光施設は「グラバー園」と名付けられて1974年9月4日に開園した。その後、1981年に長崎伝統芸能館が新たに加えられた。政府は、1991年に東山手と南山手を重要伝統的建造物保存地区に選び、2013年には「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」に構成資産、23施設のうちの一つとして旧グラバー住宅が選ばれている。(グラバー園等魅力向上プロモーション実行委員会, 2014)

旧香港上海銀行長崎支店記念館横の道路から大浦天主堂前まで延び、グラバー園の第1ゲートから東の出口まで続く「グラバー通り」が、いつ頃から観光商業施設が多い通りになったかは定かではない。大浦天主堂が国宝に指定されたのが1953年、旧グラバー邸の一般公開が1958年であるため、早くも1950年代後半頃から、かつての居留地であった「山手」が観光地化していったと思われる。

幕末から戦前にかけての外国人のための観光地としての発展を遂げてきた街並みや景観が土台となり、現在では、かつての住宅地であった山手の部分を含む地区(東山手・南山手)が、観光地として再形成され「グラバー通り」になっているといえる。

3. 新型コロナウイルス感染拡大の影響による商業施設の変容と対応

2019年12月以前は、常に国内外からの大勢の観光客でにぎわっていた長崎市であるが、2019年末の中国武漢市での新型コロナウイルス感染症のニュースが広まって以降、長崎に来る中国人旅行客が激減した。2020年1月24日～2月9日に行われた長崎市の「長崎ランタンフェスティバル」の来場者は約56万人で、前年に比べ42万人の減少している。(米田, 2020)日本ではこの頃は国内感染者の発表もなく、外国人旅行客の突然の減少に戸惑っているだけで、長崎でもまだ緊張感をもってニュースを聞いていた人は多くなかったように思う。しかし4月7日に政府によって緊急事態宣言が発令されて以降、多くの人々が「新たな生活様式」を模索しないといけないほど、様々な行動が制限されるようになった。県境移動の制限と外出自粛によって人々の経済活動は冷え込み、観光地では来客の激減に加え時短営業要請により更に厳しい事態に追い込まれている。

本稿では、最初の緊急事態宣言が発令され(主要都府県は4月7日～5月25日、長崎県は4月16日～5月14日の期間であった)解除された直後の①5月28日と、人々がコロナ禍の事態にも対処法にも段々慣れてきた約半年後の②12月17日に、グラバー通りで調査を行った。両日とも平日の晴れた日の昼間である。調査の主な目的は、商業施設の観察・記録と、現地の人々の話を聞き、現状や影響・変化を理解することにある。

3.1 2020年5月28日のグラバー通りの様子

まずはグラバー通り周辺の基本情報として、5月28日のこの時、長崎県は緊急事態宣言が解除されていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に伴い大浦天主堂は4月6日から5月31日まで一時閉鎖、グラバー園は4月10日から5月31日まで一時休園となっていた。また近隣のホテルであるホテルモンテ長崎とホテルニュータンダも5月いっぱい営業を休業している。

この日、東山手から南山手を歩いた印象は、全体的に人通りが少なく、カフェや洋菓子店、雑貨店などが立ち並ぶ道でも、以前よりもシャッターの閉まった店が増えたように感じた。全体的に活気が見られないように感じた。カステラや雑貨などを販売していた店の方によると、近隣にあるホテルニュータンダとモンテレが休館しているため県外からの客は少なく、店には主に地元の人が訪れているということだった。周辺のホテルでは唯一ANAクラウンプラザだけが開館していたが、人の出入りはほとんど見られず閑散としていた。

石畳のグラバー通りには人がほとんどおらず、とても閑散としていた。(写真1、写真2)グラバー通りを往復したところ、たくさんある土産物店はどこもシャッターが下りていて、この日営業していた店舗は、通りの坂の一番下にあるコンビニエンスストア、蜂蜜屋、祈りの丘絵本美術館併設の書店の3カ所のみであった。営業再開に向けて準備を行っていた御菓子処まえたの方によると、大浦天主堂が休館しているためほとんどの店はそれに合わせて休業しているという。また、営業していると助成金がもらえなくなるため、5月31日まで休業とし6月から営業を始めるとのこと。現在も県外から少しは人が来ているとのことだった。



写真1 シャッター通りと化したグラバー通り
(2020年5月28日 畑口撮影)

右に映り込んでいる調査者以外ほとんど人がいない様子が分かる。

蜂蜜店の杉養蜂園は蜂蜜の販売のほか、食べ歩きができるような蜂蜜入りの菓子やソフトクリームを店頭で販売している。お店の方の話によると、本社が熊本にあり、長崎の感染者は他と比べて少ないため営業を続けることになったそうである。時間短縮やカウンター越しの接客などの対策をとりながら営業しており、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言やグラバー園の休園により客足は減っているが、緊急事態宣言解除後は土日にドライブがてらグラバー園周辺を訪れるお客さんもいるとのことである。また、近隣の住民が散歩がてら当店でソフトクリームを買うこともあるという。この日、グラバー通りで見かけた通行人は、土産物店関係者以外では5人程度であったが観光客らしき人はいなかった。客足の減少により売り上げが減少することに加え、営業を継続すると従業員をも新型コロナウイルスへの危険と不安に晒してしまうことになる。周辺の店舗も営業を行っていない中で営業を続けているということに強い信念を感じた。但し、土日に来たお客さんの印象としては、グラバー園も大浦天主堂も開いていない状況でも営業を続けている店舗があることが心の拠り所となる可能性は大いにあると思う。通りの雰囲気明るく感じられることは観光地のまちづくりにとって良いことである。

祈りの丘絵本美術館は1階のこどもの本の店・童話館のみ開館していた。6月2日から通常通りの営業を再開するそうである。

営業していたこれらの店舗の他にもグラスロード 1571 には明かりがついており、近いうちの営業再開の準備をしているようだった。大浦天主堂の目の前にある文明堂と和泉屋もシャッターが下りていた。(写真2)大浦天主堂はゲートを閉めて休館と立ち入り禁止の張り紙をしており手前の階段には休業の旨を書いたボードとその脇にコロナ禍にある

人々を励ます祈りが書いてあった。



写真2 閉店している文明堂と和泉屋(左)と休館中の大浦天主堂(中央)
(2020年5月28日 小野澤撮影)
右に映り込んでいる2名は調査者.

今回調査したグラバー通り以外の場所でも同様だと考えられるが、各社の方針によって休業期間や営業時間などの状況は異なっていることが分かった(写真3, 4, 5)。現在、新型コロナウイルス感染症の影響により、会社の理念や方針の在り方が見えやすくなっているのではないだろうか。

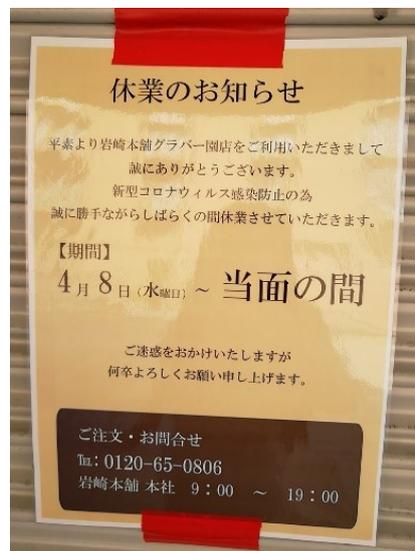


写真3 岩崎本舗グラバー園店の休業期間に関する案内表示
(2020年5月28日 山田撮影)



写真4 文明堂総本店南山手店の臨時休業に関する案内表示
(2020年5月28日 山田撮影)



写真5 大浦天主堂の全面閉鎖延長に関する案内表示
(2020年5月28日 山田撮影)

3.2 2020年12月17日のグラバー通りの様子

次に12月17日のグラバー通りの様子である。調査を実施したこの頃は、緊急事態宣言も解除され長崎県外からの観光客も再び増え始めていた時期である。ちょうど我々がグラバー通りに着いた時は、観光バスから降りてきた修学旅行中の高校生たちが、石畳を登りながら大浦天主堂とグラバー園に向かっていく最中で、グラバー通りは大変賑やかであった。(写真6, 7) 大浦天主堂までのグラバー通りの土産物店はほとんどすべてが営業中で、どの店舗も「GO TO トラベル地域共通クーポン取扱店舗」の張り紙をつけていた。(写真8) この日開いていなかった店舗は、土日にのみ開店しているプリン専門店の長崎南山手プリンと、アクセサリ屋の下の階にあるフィッシュセラピー店くらい

であった。観光客数も商業施設の開店している数も、5月の時とは比べ物にならないほど多く感動した。



写真6 修学旅行中の高校生たちがグラバー通りを登っていく様子
(2020年12月17日 小野澤撮影)



写真7 修学旅行生や一般の観光客でにぎわう大浦天主堂前
(2020年12月17日 小野澤撮影)



写真8 店舗前で見られる「GOTO トラベル地域共通クーポン取扱店舗」のお知らせ
(2020年12月17日 小野澤撮影)

グラバー通りの入口すぐにある三角屋根の長崎オルゴール館(写真6)の方の話によると、10月以降修学旅行などの団体旅行客が戻ってきていて少し安心しているとのこと。当店で販売されているお手頃価格のオルゴールは中国の工場で作られていて、一時期中国からの商品が入ってこず困ったが、今は順調に商品もそろっている。売れ筋のオルゴールは大人気アニメ『鬼滅の刃』の主題歌「紅蓮華」や「炎」のメロディーを奏でるものだそうで、修学旅行生などに買われ、今は一時的に欠品となり入荷待ちになっている。ただ、またいつ緊急事態宣言が出されるか分からないので不安だという気持ちも言っていました。

オルゴール館と大浦天主堂の間地点くらいにあるカステラ専門店の清風堂(写真9)は、お店の方の話によると、ここにしかないオリジナルカステラを多く取り揃え、観光客だけでなく地元の人にも常連がいるとのこと。特に0.5号という小さいサイズのカステラは人気で、観光客にとっても持ち運びに便利で、地元の人にとっても食べきりサイズとなっていてお買い求めやすいそう。今までグラバー通りのこの店舗しかなかったが、11月より町家風商業施設「めがね橋 LOGIC」内に新店舗を出店する。長崎のカステラ業界はこのコロナ禍で売り上げが大幅に減って大変だという話を聞いていたが、清風堂での新しい取り組みをこの度聞き、いろんな工夫と努力をしているのだと実感した。



写真9 他にはない味と大きさのカステラを揃える清風堂
(2020年12月17日 小野澤撮影)

12月のグラバー通りは、一見普通の状態に戻っているように見えた。しかし大浦天主堂前からぐるりと右へグラバー園出口まで続くグラバー通りの続きは、必ずしも元に戻っているとは言えない。いくつかシャッターの下りたまの店や改装工事中の店舗があった。お土産物屋の方に、右隣のシャッターが下りている店舗について聞いてみたところ、石のアクセサリを取り扱っていた全国チェーン店がなくなったのと、もう一店舗の土産物店は閉店したのか長期休業中なのか分からないとのことだった。また以前スタ

ジオジブリ作品関連のグッズを多く取り扱っている雑貨店のどんぐり共和国が入っていたところも改装工事中であった。どんぐり共和国も全国にチェーン展開している店舗である。このように、日本の観光地の各地に進出しているようなチェーン店舗は、コロナ禍では耐え切れず撤退してしまう傾向にあるのかもしれない。ちなみに内装工事の作業をしていた方に話を伺ったところ、その空き店舗にはカステラ屋の長崎元亀堂本舗が入ることが分かった。元亀堂は地元の人にも人気の味わいのあるカステラを作る店舗である。ここでもまた地元のカステラ店の新店舗の動きを垣間見ることができた。カステラ業界に限ったことではないかもしれないが、長崎の地元の人々と深い結びつきのある中小企業は、このコロナ禍を機に様々な取り組みにチャレンジしているのかもしれないと考えさせられた。

4. おわりに

本稿では2020年の5月と10月にグラバー通りにおけるコロナ禍の商業施設の変化を見てきたが、いくつか分かったことをまとめ、考察する。①緊急事態宣言の影響で観光施設そのものが長期の閉鎖・休業してしまうと、コロナ禍でただでさえ動きにくい観光客の客足は完全に途絶えてしまうため、観光客を相手にしている観光地の商業施設は休業せざるを得なくなる。②緊急事態宣言が解除されれば、世界文化遺産や国宝級の観光資源を有している観光地であるグラバー通りの商業施設は、緩やかにではあるが復活することも可能である。しかし一見普通に戻ったように見えても、そのまま静かに衰退・撤退している店舗もあった。③上手くいっているように見える店舗でも、観光客の最新の動向を捉え様々な取り組みに柔軟にチャレンジしている実態が分かってきた。

以上の3点にまとめてみたが、2章で記述した歴史的背景や長崎らしさといったものと絡めてグラバー通りの商業構造を考察するまでにはなかなか至らなかった。またグラバー通りを歩き回り地図にメモした情報を、上手くまとめて図化することもできなかった。2.1の店舗ごとの案内表示についての考察でも述べたように、コロナ禍だからこそ見えてくる店舗の特徴もあると思われる。今回の調査結果と反省を踏まえて、今後もグラバー通りの観光業と商業施設の実態と変化を観察していきたい。

謝辞

本稿を作成するにあたり、グラバー通りの商店の皆さまには、ご多忙中にも関わらず貴重なお話を賜りました。また2回の調査には活水女子大学現代日本文化学科4年のTHAI THI QUYNHさん、西田恋さん、村山結衣さんにも参加・協力いただきました。ここに記して感謝申し上げます。

参考文献

グラバー園等魅力向上プロモーション実行委員会編(2014):『グラバー園開園40周年記念誌』グラバー園。

蔣 沈凱(2020):長崎市東山手・南山手地区のまち歩き観光の現状. 観光学論集 15:29-37.

バークガフニ・ブライアン編著(2010) :『長崎遊学マップ 5 グラバー園への招待』長崎文献社.

堀 憲昭編(2008)a:『旅する長崎学 9 近代化ものがたりⅢ 西洋と東洋が出会った長崎居留地』長崎文献社.

堀 憲昭編(2008)b:『旅する長崎学 10 近代化ものがたりⅣ レトロ長崎 おしゃれ発信地』長崎文献社.

山口太郎(2016):長崎市東山手・南山手地区における観光空間の再編成. 駒澤地理 52:65-80.

米田悠一郎(2020. 2. 10):長崎ランタンフェス、来場 42 万人減 新型肺炎で大打撃. 朝日新聞デジタル記事. <https://www.asahi.com/articles/ASN2B6Q75N2BTOLB00D.html> (最終閲覧日:2021年2月28日)

大浦天主堂ホームページ : <https://nagasaki-oura-church.jp/> (最終閲覧日:2021年2月28日)

グラバー園公式ウェブサイト : <http://www.glover-garden.jp/> (最終閲覧日:2021年2月28日)